

令和 6 年 7 月臨時教育委員会会議録

令和 6 年 7 月 2 6 日 臨時熊谷市教育委員会を大里行政センター 2 階第 3 会議室に招集する。

- 出席者
野原 晃、大石 聡一、加藤 道子、小林 敏宏
- 出席事務局
教育次長 三友 孝二
参事兼学校教育課長 中谷 樹
教育総務課長 小暮 洋久
社会教育課長 小澤 信行
教育総務課副課長 浅見 弘江
教育総務課主事 浅見 柚妃

- 令和 6 年度第 1 7 採択地区教科書選定委員会委員長及び委員

9 時 0 0 分 臨時教育委員会開会

教育長から、令和 6 年 7 月臨時熊谷市教育委員会の開会の宣言があり、傍聴希望者 1 5 名の入室が許可され、本会議の会議録の署名人に大石委員が指名された。

教育長から、議案第 2 7 号の採決部分は非公開としたい旨の発議があり、出席委員全員が賛成し非公開で審議されることに決定した。

日程（議案第 2 7 号）令和 7 年度使用中学校用教科書の採択について

教育長から、議案第 2 7 号について説明するよう発言があり、事務局等から以下のとおり説明があった。

○事務局

本議案は、令和 7 年度から熊谷市立学校で使用する教科用図書の採択をお願いするもので、今年度は中学校用教科書を採択する。教科用図書調査研究専門員による研究、学校研究及び教科書展示会アンケートを基に、教科用図書採択に係る選定委員会において全ての教科用図書について協議・検討を重ねてきた。

本日の協議では、各種目の担当選定委員から、これまでの協議・検討を基に本市の中学校で使用する教科書について推薦を行い、教育委員会委員に選定委員からの推薦についての協議と、協議終了後の採決をお願いするものである。

○教育長

国語について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては4社ある「東京書籍」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」のうち、「教育出版」「光村図書出版」の2社を推薦する。

2社の教科書は、共通して国語科で身に付ける資質能力「何ができるようになるか」学習内容「何を学ぶか」を明確にする工夫があり、生徒の言語生活を踏まえた適切な言語活動を設定するなど、実生活・実社会に生きて働く国語の力を育成することのできる教科書である。

「教育出版」については、教材冒頭に、学習目標と教材を学ぶスキルを示した「学びナビ」を設け、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という学びの見通しをもたせている。また、「学びのチャレンジ」では、全国学力・学習状況調査やPISA調査の思考力・判断力・表現力等を高めるための問題を中心に掲載している。さらに、社会で活用できる力の育成のため、文字以外の情報と文章を関連付けて考える力の向上を図ることができるようになっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、古典の主たる教材の1つとして熊谷次郎直実が登場する「敦盛最期」が掲載され、郷土への関心や誇りを高めることができ、発展学習として妻沼聖天山にゆかりのある斎藤別当実盛を取り上げることにもつながる。デジタルコンテンツについては、「まなびリンク」（二次元コード）において、多様なデジタル資料が提供されている。

「光村図書出版」については、教材末見開きの右ページに「学びへの扉」として学習の流れを、左ページには資質能力を「見える化」した「学びのカギ」を配置している。また、3観点で自己評価を行う「振り返り」を設定しており、生徒は主体的に課題解決を図ることができる。さらに、本編と資料との間にブックインブック形式の「語彙ブック」があり、生徒が学習や生活の中で必要に応じて主体的に活用することで語彙力を高めることができるようになっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、教科横断的な学習を一層推進する多様な教材が用意されており、「学習の見通しを持とう」では、他教科との関連を明記しカリキュラムマネジメントを意識した指導計画を立てられるように配慮されている。デジタルコンテンツについては、コンピュータ上で発展問題等に取り組むこと、個々の目標や興味関心に応じて自由に選択し活用することができ、生徒の学習意欲を引き出し「個別最適な学び」を実現できるよう工夫されている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「教育出版」である。現在も本市の子供たちが学んでいる教科書であり説明の中でも取り上げたとおり、教材冒頭の「学びナビ」により本市が重点を置く学習内容の明確化を行うことができる。また、第2学年の主たる古典教材の1つに「敦盛最期」が採用されており、郷土への関心や誇

りを高めることのほか、総合的な学習、社会科及び音楽科等との関連を図り、教科横断的なカリキュラム編成に結びつけることで「新熊谷プロジェクト」の更なる充実を図ることができる考える。

次点は「光村図書出版」である。

【質疑応答】

○委員

「新熊谷プロジェクト」におけるオーセンテックな学び（現実社会に存在する可能な限り本物の実践に近い学び）を、教科書の中でどのように取り上げているのか。

○選定委員

推薦した2社の教科書は、生徒の言語生活を踏まえた適切な言語活動を設定するなど、実生活・実社会に生きて働く国語の力を育成することのできる工夫がなされている。

「教育出版」は、言語教材において日常の言語生活から言葉の機能に気付くことができるように、導入に会話文が使われている。

「光村図書出版」は、「語彙ブック」を効果的に活用することで生徒が学習や生活の中で主体的に学び、語彙力を高めることができる工夫がある。

○委員

国語では、読書指導も重視すると認知している。教科書ではどのような資料等が掲載されているのか。

○選定委員

「教育出版」では、「広がる本の世界」「まなびリンク」で教材から発展した読書活動の推進を図り、学びを深める読書案内を行っている。

「光村図書出版」では、「いつも本はそばに」で読書ライフを豊かにするための学習活動を紹介しており、また、「本の世界を広げよう」でテーマごとの本を紹介している。

推薦の2社は、いずれも読書指導や生徒の読書生活の充実に重点を置いている。

○教育長

国語については、「教育出版」、「光村図書出版」との推薦があった。

これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

書写について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては4社ある「東京書籍」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」の

うち、「教育出版」「光村図書出版」の2社を推薦する。

2社の教科書はいずれも、学習指導要領で示されている「書写」に関する事項が系統的・段階的に身に付けられるようになっている。また、1時間ごとの学習の進め方が明確に示されており、毛筆で学習したことが硬筆でも生かせるような工夫をみることができる。

「教育出版」については、資料として小中学校で学習する漢字一覧表（楷書・行書）と索引が掲載されており、生徒自身が必要に応じていつでもすぐに調べられるための工夫がある。また、「まなびリンク」が掲載された運筆や筆脈、筆順などを確認することで自主的な学びにつながり、教師にとってもICTを用いた授業づくりを効果的に進めることができる。さらに、紙面の横幅がA4版と同じ大きさと比較的大判で、右ページは半紙の形になっており、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさと余白のとり方などがより実感できる。加えて、左ページの詳しい解説により理解が深まるよう工夫されている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、書写の学びを他教科や日常生活に生かすための工夫がなされている。

「光村図書出版」については、教材に「学びのカギ」が設けられており、学習のポイントが一目でわかるようになっている。また、硬筆練習帳「書写ブック」により豊富な課題と、毛筆学習を硬筆学習に生かす工夫がある。さらに、ICTを用いた授業を効果的に進めることができるよう教材ごとに二次元コードを用いて、筆使いなど学習に役立つ資料を閲覧できるようになっている。加えて、行書の特徴である「丸み」「点画の連続」「点画の変化」「点画の省略」「筆順の変化」をポイントごとに振り返れるよう、行書学習の初めに関連ページがまとめられている。さらに、巻末の「中学生のための漢字辞典」を活用することにより、生徒の主体的な学習を導く工夫もみられる。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、書写で身に付けた力が日常生活でも生きて働くように、具体的な活用場面や書式などの掲載をしている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「教育出版」である。現在も本市の子供たちが学んでいる教科書であり、見開きの右ページが実際の半紙の形であるため、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさと余白のとり方などがより実感できる紙面の工夫がある。また、書写の学びを他教科等の学習に生かしやすい工夫がある。教科横断的なカリキュラム編成に結びつけることで「新熊谷プロジェクト」の更なる充実を図ることができると思う。

次点は「光村図書出版」である。

【質疑応答】

○委員

国語の教科書との関わりについて、具体的にどのような内容のものがあるのか

また、「書写」と「国語」の教科書は同じ出版社のものを採用することが望ましいのか。

○選定委員

書写に関する事項は、国語科の「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」の1つとして学習を行うこととなるため、国語科の「書くこと」などの言語活動と十分に関連付けて指導を行う。

推薦の2社について、「教育出版」は平家物語「敦盛の最期」、「光村図書出版」は同じく平家物語「扇の的」の一節が教科書に掲載されており、いずれも古典教材と関連付けている。

必ずしも同じ出版社の教科書を採用しなくてはいけないわけではないが、関連性があった方が望ましいと考える。

○委員

「書写」で学んだことを、他の教科や日常生活で生かすことは重要であると考え。具体的にどのような事例が掲載されているのか。

○選定委員

「教育出版」では社会科の横書きノートの例や、理科の植物観察レポートなど、書写の学びを生かす例が示されている。

「光村図書出版」では書写で身に付けた力が学校生活でも生きて働くように、「目標を書こう」「壁新聞を作ろう」といった具体的な活用場面などを掲載している。

2社ともに、日常生活・社会生活に生かす場面として、小包伝票や包み紙の書き方などを取り上げている。

○教育長

書写については、「教育出版」、「光村図書出版」との推薦があった。

これらを参考に採決することよろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

歴史（地理的分野）について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては4社ある「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」のうち、「東京書籍」「帝国書院」の2社を推薦する。

「東京書籍」については、学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力に関係する内容について、各章の構成が「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」という流れで統一されており、生徒が学習に取り組みやすくなっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、小学校や他分野・他教科との関連のあるページにクリップマークを付しており、二次元コードを読み取って該当教科の教科書を参照することで、教科横断的な学習につなげる工夫をしており、また、導入・

展開・まとめの学習段階に応じて最適な二次元コードコンテンツが多数用意されており、生徒の個別最適な学び・協働的な学びを支えている。SDGsについては、第2編第2章「世界の諸地域」の導入「SDGsから地球的課題を考えよう」、まとめ「SDGsから地球的課題を振り返ろう」、第3編第4章で「持続可能な地域の在り方」で扱い、興味・関心が高まるようになっている。

「帝国書院」については、学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力に関する内容について、見通しをもって学習に取り組めるよう「章・節の問い」（単元を貫く問い）を明示し、章・節末に「学習を振り返ろう」を設置し、思考ツールを活用しながら対話を通して「章・節の問い」に取り組むという統一された単元構造になっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、小学校・他分野・他教科との連携を図り、「小・歴・公」アイコンを設置する、「小学校・歴史・公民・他教科との関連」コーナーで関連する学習事項を提示するなど、教科横断的な構成になっている。また、SDGsに関連して表紙裏ページに世界と日本における「持続可能な開発目標」の事例の写真での紹介、日本の諸地域各節末の「未来に向けて」においてSDGsマークを付し持続可能な社会に向けて取り組んでいる実社会の例の掲載などがある。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「東京書籍」である。「東京書籍」は現在使用している教科書であり、単元のまとまりを意識した課題解決学習に力を入れており、生徒が主体的・対話的に学習に取り組み深い学びにつなげられるようになっているところが特出すべき点と考える。

次点は「帝国書院」である。

【質疑応答】

○委員

教科書における北方領土・竹島等の領土に関する記述はどうなっているか。

○選定委員

すべての地理の教科書において「北方領土」「竹島」「尖閣諸島」「日本の東西南北の端」について、地図と写真が掲載されている。いずれの教科書も「北方領土」「竹島」が日本固有の領土であること、「尖閣諸島」は日本の領土であり、領有をめぐる問題はないとの記述がある。

○委員

埼玉県に関する取扱いはどうなっているか。

○選定委員

日本文教出版を除く3社で記載がある。「東京書籍」では「近郊農業についてのコラム」で取り上げている。

○委員

ICTとの関連はどうか。

○選定委員

どの出版社も I C T の活用を意図した特色あるデジタルコンテンツを採用している。

「東京書籍」は、導入・展開・まとめの学習段階に応じて、学習を広げる（個別学習・予習や復習・家庭学習等）二次元コードコンテンツが多数掲載されている。

「帝国書院」は、二次元コードコンテンツが充実（13項目）している上、教科書の目次や中面の随所だけでなく裏表紙に掲載している二次元コードからもアクセスできるようになっている。

「教育出版」は、「まなびリンク」からウェブサイトにつながり学習に役立つ情報を閲覧できるようになっている。

「日本文教出版」は、主に4つの教科書二次元コードコンテンツが利用できるようになっている。

○教育長

社会（地理的分野）については、「東京書籍」、「帝国書院」との推薦があった。

これらを参考に採決することよろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

社会（歴史的分野）について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては9社ある「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「山川出版社」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」「学び舎」「令和書籍」のうち、「東京書籍」「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」については、学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力に関する内容について、見開きを1単位時間として「導入資料」「課題解決」「本文」「チェック&トライ」を位置付け、1時間の学習の流れを「見える化」している。また、技能習得のための「スキル・アップ」を充実させることで基礎的な知識・技能の定着を図っている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、小学校や他分野・他教科との関連のあるページにクリップマークを付しており、二次元コードを読み取って該当教科の教科書を参照することで、教科横断的な学習につなげる工夫をしている。また、導入・展開・まとめの学習段階に応じて最適な二次元コードコンテンツが多数用意されており、生徒の個別最適な学び・協働的な学びを支えている。SDGs に関しては、持続可能な社会の実現に向けて考えるきっかけとなるコラム「未来にアクセス」が新たに設けられている。

「教育出版」については、学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力に関係

する内容について、見開きを1単位時間とし「導入資料」及び「学習課題」、本時ページの最後に「確認」及び「表現」のコーナーを設け、学習したことを整理しながらまとめることで学習事項の定着が図られている。また、「歴史の技」コーナーでは個人やグループでの活動を通して、歴史の学習で身に付けたい技能や表現力を養えるよう配慮されている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、特設ページの左ページ下に地理や公民との関連を示す「関連マーク」を付し学習の連携や振り返りを図る工夫がされている。また、他教科との関連についても「歴史にアプローチ」に多面的・多角的な学びの例として示している。さらに、小学校・中学校で学習した人物が識別できるように工夫されており、小学校・中学校のつながりを意識した通史学習の充実が図られている。加えて、歴史学習の終わりの「～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、それまでの歴史学習を踏まえて、SDGsの観点から現代の課題を考察し未来を構想できるように構成されている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「東京書籍」である。現在使用している教科書であり、単元のまとまりを意識した課題解決学習に力を入れている。また、各章ごとに「課題をつかむ」、歴史的な見方・考え方を働かせて「課題を追究する」、「課題を解決する」というステップで構成され、段階的に学習が進められるよう工夫されている。さらに、まとめの場面においても、思考を整理する様々な思考ツールが二次元コードコンテンツを利用して活用できるようになっている。

次点は「教育出版」である。

【質疑応答】

○委員

埼玉県の歴史的事象の取扱いはどうなっているか。

○選定委員

どの出版社にも記載されている。

○委員

新紙幣に関係する3人の取扱いはどうなっているか。

○選定委員

渋沢 栄一については「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「山川出版社」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」で取扱いがある。

津田 梅子については「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「山川出版社」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」「学び舎」「令和書籍」で取扱いがある。

北里 柴三郎については「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「山川出版社」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」「令和書籍」で取扱いがある。

○委員

ICTとの関連はどうか。

○選定委員

7社で取扱いがある。しかしながら内容や二次元コードの数に差があり、「東京書籍」「帝国書院」「日本文教出版」が特出していると考ええる。

○教育長

社会（歴史的分野）については、「東京書籍」、「教育出版」との推薦があった。これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

社会（公民的分野）について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては6社ある「東京書籍」「教育出版」「帝国書院」「日本文教出版」「自由社」「育鵬社」のうち、「東京書籍」「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」については、学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力に関する内容について、見開きを1単位時間として、「導入資料」「課題解決」「本文」「チェック&トライ」を位置付け、1時間の学習の流れを「見える化」しています。また、資料の読み取り方、収集方法等を紹介する「スキル・アップ」や、それを活用する「活動コーナー」が適宜設けられており、公民の学習に必要な技能を定着できるようにしている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、小学校や他分野・他教科との関連のあるページにクリップマークを付しており、QRコードを読み取って該当教科の教科書を参照することで、教科横断的な学習につなげる工夫をしている。SDGsについては、第5章の「地球社会と私たち」終章の「より良い社会を目指して」で集中的に扱っている。

「教育出版」については、学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力に関する内容について、各章の導入で学習テーマに関連する身近な例を写真やイラストで示して学習する際の視点を捉えさせるようにし、章・節末の「学習のまとめと表現」を行うことで個人と社会の関わりを中心に学習理解が深められるようにしている。また、「公民の技」を設け、個人やグループ活動を通して公民の学習で身に付けたい技能や表現を養えるようになっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、左ページ下に関連コーナーを設け、他分野・他教科との関連について意識しながら学べるようになっている。SDGsについては、巻頭のなぜ公民を学ぶのかというテーマとともに大きく触れており読み物資料も多数ある。また、各右ページの下に関連テーマが明記され、各章末の「JUMP」でSDGsを意識した活動が取り入れられるなど、SDGsを公民学習全体に関わる大切な視点として扱っている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「東京書籍」である。現在使用している

書籍であり、単元のまとまりを意識した課題解決学習に力を入れており、また、単元を貫く探究課題の設定場面を重視し、導入資料として身近な題材を取り入れることで生徒の興味・関心を高め、主体的な学びにつながるよう工夫している。さらに、生徒自身が課題を把握しやすいように課題設定の場면을対話形式で示す等の工夫も見られ、まとめの場面においても思考を整理する様々な思考ツールが二次元コードコンテンツを利用して活用できるようにしている。生徒が主体的・対話的に学習に取り組み、深い学びにつなげられるようになっているところが特出すべき点と考える。

次点は「教育出版」である。

【質疑応答】

○委員

「よりよい社会を目指して」に関する学習はどうなっているか。

○選定委員

どの出版社も扱っている。特にSDGs（持続可能な社会）の実現に向け、自分たちに何が出来かを考え、提案する学習を設けているものが多くなっている。

○委員

「性の多様性」や「新しい人権」について取り上げているか。

○選定委員

「東京書籍」は、「性の多様性」に関してパートナーシップ制度について説明しており、「新しい人権」に関して科学技術の発展と人権（クローン）について取り扱っている。

「教育出版」は、「性の多様性」に関して「LGBT」についての特設ページが設けられており、「新しい人権」に関して「発展的人権」、AIと人権についての特設ページがある。

「帝国書院」は、「性の多様性」に関して「LGBTQ+」やジェンダーレス、パートナーシップ制度に関する記載があり、「新しい人権」に関して「広がる人権の考え方」、クローン技術に関するコラムがある。

「日本文教出版」は、「性の多様性」に関してパートナーシップ制度や夫婦別姓について解説があり、「新しい人権」に関して「社会の変化と人権保障」、AIと人権に関する記載がある。

○委員

ICTとの関連はどうか。

○選定委員

多くの出版社でICTを活用した特色あるデジタルコンテンツを採用している。

「東京書籍」は、導入・展開・まとめの学習段階において、学習を広げる個別学習・予習学習・家庭学習等の二次元コードコンテンツが多数掲載されている。また、

二次元コードコンテンツを読み取って該当教科の教科書を参照でき、教科横断的な学習につなげられるようになっている。

「教育出版」は、各章の扉ページ「まなびリンク」を読み取ることで、多様なデジタルコンテンツにアクセスできるようになっている。

「帝国書院」は、二次元コードコンテンツを利用して資料や動画の閲覧、振り返り問題と解答が見られるなど、学習効果を高められるようになっている。教科書の目次や中目の随所だけでなく裏表紙に掲載している二次元コードコンテンツからもアクセスできるようになっている。

「日本文教出版」は、二次元コードコンテンツからポートフォリオ、イントロダクションムービー及び確認小テスト等の利用、関連分野の資料なども確認できるようになっている。

「育鵬社」は、目次や各章の始めにある二次元コードから学習内容に関連した動画の閲覧、情報の収集ができるようになっている。

○教育長

社会（公民的分野）については、「東京書籍」、「教育出版」との推薦があった。
これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

地図について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては「東京書籍」「帝国書院」の2社を推薦する。

「東京書籍」については、学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力に関係する内容について、世界や日本の地域学習において基礎的・基本的な「知識及び技能」を習得できるように地域の概観に役立つ自然・産業・人口などの主題図を共通して掲載している。また、地理的分野の学習の他に歴史的分野・公民的分野の学習と連携した資料も掲載され、社会的事象を多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、伝統や文化に係る資料、領土問題を含めた領域の資料、現代社会の現状や課題に関する資料が掲載されるなど、実社会とのつながりが意識された内容となっている。また、SDGsのゴールの一覧が掲載され関係ある資料にはマークを付すなど現代社会の諸課題の解決に向けて取り組めるようになっている。さらに、生徒の興味・関心を高めるような多彩なデジタルコンテンツが用意されそれに接続できる二次元コードが掲載されている。

「帝国書院」については、学習指導要領が目指す、育成すべき資質・能力に関係

する内容について、基礎的・基本的な「知識及び技能」を習得できるよう「この地図の凡例はんれい」「この地図の使い方」を巻頭に掲載し、地図帳の基本的な見方・使い方をわかりやすく解説している。また、要所に設けられた問い「地図で発見！」では、地図の読み取り方等の地理的スキルが身に付くように工夫されている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、「歴史アイコン」「公民アイコン」が設けられ、他分野の学習と関連付けて学べるよう工夫されている。また、資料の横にSDGsアイコンの設置された関連資料が豊富に掲載されており、環境問題や防災をテーマにした資料が多く見られる。さらに、学習内容の習得や調べ学習を支援する二次元コードコンテンツが各ページのタイトル横などに付いており個別最適な学びを支援できるように工夫されている。

本市に最もふさわしいと考える地図帳は「帝国書院」である。現在使用している地図帳であり、地図の活用を通して世界と日本の地域的特色が捉えやすい工夫がされており、地図帳の中部地方を例に見比べると「東京書籍」と比べて、「帝国書院」の方が色彩がよく文字も読み取りやすく構成されている。また、歴史的分野や公民的分野をはじめ多様な場面で活用できる工夫がされており、巻頭で地図帳の基本的な見方・使い方をわかりやすく解説しているため学習場面で活用しやすく、教師の視点からみても使いやすい点が挙げられる。

次点は「東京書籍」である。

【質疑応答】

○委員

オーセンティックな学びについて、地図帳はどう活用できるか。

○選定委員

「東京書籍」では、「環境問題」「人口問題」「資源・エネルギー問題」など現代社会の諸課題に関する資料や共生社会の実現に向けた世界の生活や文化に関する資料が掲載されており、これらの資料を活用した課題解決を通してオーセンティックな学びの実現が図られるようになっている。

「帝国書院」では、各資料に他分野との関連を示した「歴史アイコン」や「公民アイコン」、小学校での地図学習に関連した「小アイコン」が付されており、資料を多目的に活用できるよう工夫している。また、「他分野・他教科 教科書リンク」というコンテンツは二次元コードで地理的分野以外の他分野・他教科の教科書紙面にアクセスできるようになっており、教科横断的な学びが可能となっている。

○委員

地理の教科書と地図帳が同じ出版社のものでなくても不都合はないのか。

○選定委員

熊谷市では、今までも教科書は「東京書籍」、地図は「帝国書院」のものを使用しているが特に大きな問題はない。教科書と地図帳が同じ出版社であれば、同一のキ

キャラクターが出てくるなど関連性が感じられるといった利点があるが、地図はあくまでも地図で学ぶというより学習の補足や深化場面で活用することが多いため、関連性というよりもむしろ地図帳そのものの見やすさ・使いやすさを追求すべきだと考える。そのため、教科書は「東京書籍」、地図帳は「帝国書院」を推薦している。

○教育長

地図については、「帝国書院」、「東京書籍」との推薦があった。

これらを参考に採決することよろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

数学について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては7社ある「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「新興出版社啓林館」「数研出版」「日本文教出版」のうち、「新興出版社啓林館」「日本文教出版」の2社を推薦する。

「新興出版社啓林館」については、各節の導入において日常生活の話題や既習事項を「ひろげよう」という形で提示しており、数学を学ぶ意義や有用性を実感させるための工夫となっている。また、教えることと考えさせることを色つきの囲みによって分けることで、教員にとっては教えやすく生徒にとっては学びやすい構成となっている。さらに、縦のラインを上手に活用しており「例」「例題」で基礎・基本の内容を丁寧に扱った直後に「問」を設定することで、知識・技能の定着が図れるよう工夫されており、「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」において、学んだことを表現させる場面を設定している。二次元コードの数は平均約120個と標準的な数だが教科書の内容を補足する部分や練習用の問題と上手にリンクさせることで教科書のページ数を大きく減らしている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、「緊急地震速報のしくみ（1年）」など他教科・領域と関わりを持たせた教材を各学年で複数扱うとともに、SDGsと関連した題材にはわかりやすくマークを付けるなど意識的に取り入れている。

「日本文教出版」については、教科書の見開き1ページで1時間の授業が完結するような構成で授業の流れが見えやすくなっている。また、ページの冒頭には「Q（導入課題）」とともに「めあて」が示され、生徒はその時間の学習内容がわかりやすいよう工夫されている。さらに、各章前頁の「次の章を学ぶ前に」のコーナーにおいて次の章に関連する既習事項の問題を用意することで、つまづきを未然に防ぎ新しい内容を習得しやすくしている。加えて、ノートに貼り付けることができるサイズの「振り返りシート」「対話シート」が用意されており他者と考えを共有し深め

ることができるように工夫している。QRコードの数が平均140個とやや多くその上部にためす・みる・しらべるなどその用途が示されており、使いやすくなっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、日本地図やリサイクルなど各教科と関連付けられた問題があり、SDGsと関連した題材も巻末で扱われている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は「新興出版社啓林館」である。現在使用している教科書であるとともに身近な話題を数学化する過程をわかりやすく提示しており、生徒が学習する意欲を持ちやすくしている。また、考え方を適切に提供することで生徒が自由な発想をしやすい作りになっており、数学科の教員にとって自分の強みや個性を生かした授業づくりにつながると考えられる。さらに、ラインや色の使い分けにより学習のまとまりがわかりやすく、タブレットの活用が進む中で紙の教科書とデジタル教科書との役割分担を進めたためか教科書のページ数が削減され中身が精選されている。「学ぶ楽しさや意義が実感できる」「数学的な見方・考え方を体得できる」「ICTの効果を学びに生かすことができる」といった特徴は「新熊谷プロジェクト」推進に向けて最も効果的であると考ええる。(次点は「日本文教出版」)

【質疑応答】

○委員

生徒が自由な発想をしやすい作りになっていること、ICTの効果を学びに生かすことができることから「新興出版社啓林館」がよいとの説明があったが、教員による差がつく恐れはないか。

○選定委員

本教科書で教える教員は数学科のプロフェッショナルな教員であり、日常的に教員一人一人の個性や強みを生かして学習内容をかみ砕いてわかりやすく教えている。「新興出版社啓林館」以外の教科書はめあてや考え方というようなものが多く生徒の思考を狭め、情報量が多いことで消化不良を起こしたりする生徒が増えることが憂慮される。

○委員

熊谷教育、「新熊谷プロジェクト」の目指す「オーセンティックな学び」を「新興出版社啓林館」の教科書によってどう実現するのか。

○選定委員

どの教科書も「主体的・対話的で深い学び」「数学的な見方・考え方」に重点を置いた作りになっていて、練習問題のレベル分けを行うなど学習内容を定着させるための工夫も行っている。中でも「新興出版社啓林館」の教科書は内容が精選されており、少なく教えて大きく学ばせるという視点が感じられる。また、どの章も身近な疑問を数学的に解釈し数学の問題に置き換えるという構成になっており、これは以前から「新興出版社啓林館」の教科書で意識されていることで、これにより学ぶ

目的や必要性を感じやすくさせるとともに、解いた問題が身近な場面にどのようにフィードバックされるのかを考えやすくさせるため、オーセンティックな学びにつながりやすいと考えられる。

○委員

小学校の算数の教科書は別の出版社を採択しているが、小中学校とのつながりで同じ出版社のものでなくても不都合はないのか。

○選定委員

熊谷市では現在でも小学校は「東京書籍」、中学校は「新興出版社啓林館」を使用しているが特に大きな問題はないと考える。数学科専門の教員にとって、基礎的な内容から応用まで教員一人一人の個性や強みを生かして幅広く指導することができる教科書が「新興出版社啓林館」で、生徒にとっても一つの考え方ではなく自由な発想をしやすい作りになっている。

○教育長

数学については、「新興出版社啓林館」、「日本文教出版」との推薦があった。

これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

理科について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては5社ある「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「新興出版社啓林館」のうち、「東京書籍」「教育出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」については、「知識・技能」を習得するために、各単元の最初や途中に既習の学習内容「何年生でどんな内容を学んだか」を写真やイラスト入りでわかりやすく示している。また、器具操作や記録方法等についても、活用する箇所に図や二次元コード（QR）を用いて生徒が自分で活用できるようにしている。さらに、章末や単元末に確認のための問題を配置し学習したことを反復することで確実に学習内容の定着が図れる構成になっている。「思考力、判断力、表現力」を育成するためには、課題に迫るヒントや課題に対する視点を提示し、生徒が実験や観察の目的を把握して仮説や学習計画を立てやすくする工夫がしてある。また、周りの生徒と意見交換した後に比較・検討・改善する「検討改善」という活動が効果的な箇所に提示してあり理科に必要な比較検討の作業を重視したつくりになっている。「学びに向かう力、人間性等」を育成するためには、導入で二次元コード（QR）を活用するとこれからの学習と実生活との関連が読み物や動画で確認でき、導入で生徒の興味関心を高める工夫がしてある。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、他

教科との関連を、関連する項目や学習する学年・学習内容とあわせて記載しており教科横断的な学習がしやすいようになっており、他教科の教科書を参照できる二次元コード（QR）も示してある。また、デジタルコンテンツとしては資料や動画等が見られる二次元コード（QR）が3年間で約750個と豊富にあり、他の教科書と比較して最も多く生徒が自分でICTを活用した学習を行うのに便利になっている。

「教育出版」については、「知識・技能」を習得するために、各章ごとに「疑問」「課題」「仮説」「計画」「実験」等の学習が順序よく明示されており、基本的な探究の進め方に沿って学習が進められる工夫がされている。また、基礎的な問題が充実しており基礎的な内容を確実に押さえられる工夫がしてある。「思考力、判断力、表現力」を育成するためには、各単元に1か所程度探究課題を設定することで探究活動が促進され、科学的思考力の醸成につながるようになっている。また、基礎問題の後ろに活用問題が配置されており習得した知識を活用して思考するよう工夫されている。「学びに向かう力、人間性等」を育成するためには、巻頭に探究学習の進め方が示されていて生徒がいつでも探究の理科学習の進め方を確認できるよう工夫されている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、学習する内容と関わりの深い教科の関連する内容が示されておりカリキュラムマネジメントを意識した作りとなっている。また、デジタルコンテンツとしては資料や動画等を二次元コード（QR）で掲載し必要に応じて活用できるようになっている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「東京書籍」である。理科では、観察・実験によって明らかになった現象に対して「なぜそのような結果になるのか」を科学的根拠を基に思考・表現できる力が大切であり、そのためには「個人で考えさせた後に、グループで互いの考えを共有・検討する」学習が有効だと考える。「東京書籍」の教科書は、生徒がじっくりと課題について考え、自分の考えを表現した後にグループで共有し比較検討するつくりになっており、学習を通して理科の資質・能力を育成する授業に適していると考ええる。

次点は「教育出版」である。

【質疑応答】

○委員

小学校で使っている教科書（「教育出版」）と会社が異なっても大丈夫か。

○選定委員

学習指導要領に示されている理科の内容は学年ごとにまとまっているため、教科書もそれぞれ独立した単元で構成されている。そのため、小学校の教科書と出版社が異なっても生徒側・教師側ともに不都合はないものと考ええる。

○委員

「熊谷の子供たちにとってどの教科書がよいか」という視点から最も適した教科

書はどれか。

○選定委員

「東京書籍」だと考える。理由は、科学的探究の流れや探究に必要な「見方」「考え方」を分かりやすく示すことで課題解決能力の育成が図られるからである。また、豊富な二次元コード（QR）などの資料を活用して理科の「資質・能力」を育成するという構成や仕組みがしっかりと整えてあるからである。「教育出版」の教科書も探究を重視した作りで「東京書籍」に似ておりよく工夫されているが、「東京書籍」の方がカラーのイラストや写真、動画等が充実しており生徒が使いやすいと考える。

○委員

教師が指導しやすい教科書はどれか。

○選定委員

「東京書籍」は、観察・実験に対する安全配慮、生命や環境への配慮、社会とのつながりなど「新熊谷プロジェクト」の考えに沿った指導がしやすい内容や構成になっている。「教育出版」も教師が工夫できる個所や自作教材について触れているが、教師の負担軽減を考えると「東京書籍」の方が教師にとって使用しやすいと考える。

○教育長

理科については、「東京書籍」、「教育出版」との推薦があった。

これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

音楽（一般）について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては「教育芸術社」と「教育出版」の2社を推薦する。

「教育芸術社」については、学習指導要領の「知識及び技能」を習得するために、豊かな響きのある発声や指揮法といった歌唱・合唱の基本的な技能のほか、鑑賞における音楽のもつ曲想と音楽の構造、音楽を形づくる要素などの関わりを、キャラクターの吹き出しの言葉によって生徒の気付きや理解を促している。「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、生徒が思いや意図をもって音楽表現をし演奏のよさを味わって聴くために、発想や考えを広げるヒントや考えたことを記述できるワークシートが掲載されている。「学びに向かう力、人間性等」をかん養するためには、3つの資質・能力と対応する学習内容や教材を系統化した「学びの地図」等により生徒が見通しをもって学ぶことができるようになっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、教科横断的でオーセンティックな視点で見ると能「敦盛」の音楽鑑賞や謡「敦盛」の歌唱活動が、国語科や社会科と関連して学ぶことで

「音楽的な見方・考え方」をより働かせた学びができる。また、音楽と仕事、人と人をつなぐ音楽など日常生活や社会と関連した学びができる教材も取り入れられている。

「教育出版」については、学習指導要領の目標を達成するための工夫では、学習指導要領の「知識及び技能」を習得するために、合唱で表現する際の指揮の基本形や歌唱表現の基礎的な技能などが写真やイラストにより示されている。「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、音楽を形づくっている要素に注目して、曲想との関わりや感じ取ったことを学び合うことができるワークシートや、聴く視点をもって楽曲を比較鑑賞する「比べてみよう」のコーナーなどが配置されている。「学びに向かう力、人間性等」をかん養するためには、題材の系統性が示されており表現と鑑賞を効果的に関連させることができるようになっている。また、我が国や諸外国における様々な時代の音楽が掲載され、生徒が音楽の多様性や固有性、よさや面白さを感じ取りやすい教材が選択されている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、教科横断的でオーセンティックな視点からみると、外国語の歌詞の教材や音の三要素、コンピュータとアプリなど、外国語や理科、技術・家庭など他教科と関連させた学習ができるようになっている。また、創作活動ではプログラミング的な見方・考え方が育成できるようになっている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「教育芸術社」である。現在も使用している教科書であるとともに小学校での学習内容との系統性がしっかりと確保され、表現と鑑賞がバランスよく配置されており、義務教育9年間を通して音楽科の目標に迫る内容となっている。また、音楽科担当の教員のカリキュラムマネジメントにより、各校の生徒の実態に応じて柔軟な指導計画が作成できるという理由から、教科書上題材に縛られないように配慮されている。

次点は「教育出版」である。

【質疑応答】

○委員

音楽科の授業でタブレット端末を使用する際、効果的な学びができる教科書はどれか。

○選定委員

「教育芸術社」では、120以上の二次元コードにより、ワークシートのほか鑑賞曲の譜例の再生、創作ツールやカラピアノ音源などがある。創作ツールで音から音楽をつくり、実際の演奏家の演奏を視聴したりできるなど授業での活用に加え、個別学習ができるようになっている。

「教育出版」では、38の二次元コードにより、ワークシート例や解説動画等が流れるようになっている。

○委員

音楽科でのより深い学びの実現に向け、生徒や教員が効果的に活用できる教科書はどれか。

○選定委員

「教育芸術社」の「学びのコンパス」では、学習の手順に番号を付し各段階で考えることなどが示されており、学習の見通しが立てやすく生徒が自分の考えや思い、仲間との意見交流をしながら学習を深めることができるように工夫されている。また、登場するキャラクターの吹き出しの言葉がヒントとなり、生徒が表現活動での発想や考え方を広げることができる。

「教育出版」の鑑賞曲のスコア（楽譜）は、作曲家の指示も記入されている等しっかりしたものになっているため生徒が歌を作るときなどに参考にすることができる。

○教育長

音楽（一般）については、「教育芸術社」、「教育出版」との推薦があった。

これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

音楽（器楽）について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては「教育芸術社」「教育出版」の2社を推薦する。

「教育芸術社」については、学習指導要領の「知識及び技能」を習得するために「学びのコンパス」や「Q&A」などのコーナーにより姿勢や楽器の構え方、奏法のほか、音色などの基礎的・基本的な学習内容や演奏のポイントが写真や説明で確認できるようになっている。また、生徒が音楽から知覚・感受したことを基に思考、判断、表現を行うためのヒントがキャラクターの言葉で示されている。さらに、プロの演奏家のメッセージなどを通して音楽と自分との関わりを考え、様々なジャンルの楽曲を演奏することにより、生徒の学びに向かう力や人間性等のかん養を図っている。本書はリコーダー、ギター、箏、三味線、和太鼓、篠笛、尺八、打楽器などの各楽器の学習内容がバランスよく取り上げられており、特に和楽器は奏法や礼儀作法なども写真とともに掲載されている。リコーダーについては、楽譜の横に運指のイラストが配置され、生徒が個人練習の際に都度確認できる紙面構成になっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、教科横断的、オーセンティックな視点から見ると熊谷うちわ祭りなどの郷土の祭りや芸能、音楽と文化、地域社会との関わりなどが写真で掲載（山車ごとに篠笛の長さが異なる＝音域の高低が異なる）されており、社会科や総合的な学習の時間との関連を図ることができる。

「教育出版」については、学習指導要領の目標を達成するための工夫として教材となる練習曲ごとに学習のねらいが示され、「その曲で何を学ぶか」が明確になっており、基礎的・基本的な知識及び技能が段階的に習得できるようになっている。「表現の仕方を調べてみよう」では、音の出る仕組みや構え方に着目し比較鑑賞から音色や吹き方の特徴、音や音楽から知覚・感受したことを話し合い、共通点や相違点を考えるなど、深い学びができるようになっている。また、「Let's Play」や「Let's Try」のページでは、豊富なアンサンブル教材により、他者と協働して音楽を表現する楽しさを味わい、「名曲旋律集」として鑑賞の授業で学習した楽曲を実際に楽器で演奏したりする活動を通して、生徒の学びが広がるようになっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、「〇〇楽器の仲間たち」のコーナーで歴史的な背景や生活様式、流通、貿易といった視点から楽器の形などとの関係を考え、和楽器の学習では郷土、地域のお囃子で使用されている楽器と結び付けるなど他教科との関連を図ることができます。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「教育芸術社」である。現在も使用している教科書であるとともにそれぞれの曲や教材で「何をできるようにするか」という学習内容やその方法、考えたいポイント、学習に必要な情報が明確に示されており、本市の中学生にとって分かりやすいものとなっている。また、充実したICTコンテンツにより生徒の個別最適な学びも実現できると考える。

次点は「教育出版」である。

【質疑応答】

○委員

音楽表現についての工夫はあるか。

○選定委員

アルトリコーダーの演奏を例に挙げると、「教育芸術社」ではタンギングやアーティキュレーションの工夫など、目には見えない音色について音の出し方の特徴や吹き方の説明が図やイラストで示されているため、「どのような音色で演奏するとこの音楽のよさが表せるか」といった音楽表現へのイメージを持ちやすくなっている。「教育出版」では、音域や音のイメージからタンギングの種類を発音の違いとして整理した表などが示されている。

○委員

器楽の教科書における二次元コードはどのくらい充実しているのか。

○選定委員

「教育芸術社」は42の二次元コード、「教育出版」は24の二次元コードにより、学習に役立つデジタルコンテンツが用意されており、「教育芸術社」の動画の方がギターのかまえ方が手元だけでなく全体像が映っているなど生徒にとって見えやすいものとなっている。どちらの教科書もワークシートのほか基本的な奏法の動画、和

楽器演奏として古くから伝承されている口唱歌の映像、演奏用音源などが活用できるようになっているが、「教育芸術社」の方が口伝で伝わっているものも音源が聞き取りやすく、見て分かりやすいものであると考える。

○教育長

音楽（器楽）については、「教育芸術社」、「教育出版」との推薦があった。
これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

美術について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては3社ある「開隆堂出版」「光村図書出版」「日本文教出版」のうち、「日本文教出版」「開隆堂出版」の2社を推薦する。

「日本文教出版」については、学習指導要領の「知識及び技能」を習得できるようにするために、題材ごとに「見方・考え方」を気づかせる場面「鑑賞の入り口」「造形的な視点」が載せてある。「思考力、判断力、表現力等」を養成するためには、参考作品に「作者の言葉」が記載されており、制作に至るまでの思考や表現方法を知ることができるようになっている。「学びに向かう力、人間性等」をかん養するためには、美術を職業に、または美術の学びを生かしながら様々に活躍をしている人たちを、さらに生活や社会と結びついた美術を掲載することで、美術での学びを将来に生かせるようにしている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、生活と社会に結びついた美術を意識した構成となっており、各冊両観音開きのページに原寸大の図版、また高精細印刷の浮世絵ページがある。また、道徳をはじめ、各教科との関連について資料が用意されている。

「開隆堂出版」については、学習指導要領の「知識及び技能」を習得できるようにするために、題材毎に「知識・技能」のコーナーが設けられており、その題材で活用する技法や用具についてまとめられている。「思考力、判断力、表現力等」を養成するためには、生徒が制作するうえで必要な描画方法や表現素材が様々な資料で構成されており、生徒の主体的な学びを促し新たな発想力育成の助けとなっている。

「学びに向かう力、人間性等」をかん養するためには、中学生に関心の高いアニメなどの現代的コンテンツを豊富に取り入れている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、題材と各教科の関連について資料に「題材一覧」があり、教員が指導に生かせるようになっている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「日本文教出版」である。現在使用している教科書であり、本市が進める教科横断的でオーセンティックな学びの実現につ

ながら教科横断的な視点など、扱われている資料や写真を比較したときに甲乙のつけがたいところもあるが、構成がよくできているという点から推薦した。例えば、表現活動の際に参考となる資料はどちらの教科書も充実しているが、「日本文教出版」は題材との関連を意識して資料を掲載されていた。さらに、「木でつくる」技法については、木材の特性から様々な技法が細かく説明されていて、経験の浅い教員でも指導しやすいように配慮されていると感じた点が評価された。

次点は「開隆堂出版」である。

【質疑応答】

○委員

同じような題材で、比較できるものはあるか。

○選定委員

身近材を使った立体表現で、3つの教科書が、富田菜摘氏を取り上げている。「日本文教出版」と「光村図書出版」は「材料に命を吹き込む」という同じ題材で、「開隆堂出版」は「生き生きとした姿で現す」という題材の中で「廃材に命を吹き込む」という形での紹介である。3社を比較すると、「開隆堂出版」はSDGsの関連から紹介しているため学習の目標からは離れてしまうと感じる。「日本文教出版」と「光村図書出版」の2社は、作家の作品から学習が始まるが参考作品の大きさに大きな違いがあり、生徒が発想しやすいものは「日本文教出版」の生徒がつくり出す大きさに近いものだと考える。

○委員

それ以外の題材で比較しやすいものはあるか。

○選定委員

ピカソの「ゲルニカ」を扱った鑑賞で、「日本文教出版」と「光村図書出版」では、観音開きで生まれる紙面の大きさを生かした扱いとなっている。また、「日本文教出版」では比較する人（中学生平均身長）を作品と同じページに入れることで、作品の大きさや迫力を生徒に伝えようとする工夫が見られる。「開隆堂出版」では、作品の大きさは2社と比較すると小さくなっている。

○教育長

美術については、「日本文教出版」、「開隆堂出版」との推薦があった。

これらを参考に採決することよろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

保健体育について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては4社ある「東京書籍」「大日本図書」「大修館」「学研」のうち、「学研」「大修館」の2社を推薦する。

「学研」については、まず、導入のウォームアップで課題を見つけた後、課題の解決、学んだことの活用やまとめまでの道筋が生徒にわかりやすく、知識を確実に習得できるようになっている。次に、各学習項目の最後に「学びを生かす」という課題があり、学んだ知識をまとめたり深めたりすることができるようになっている。さらに、ウェルビーイングの視点が重視されており、「よりよく生きる」「よりよく生きる世界をつくる」という、これからの時代を考えた資料や考え方が多く取り入れられている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、単元の終わりの資料で身近な課題を取り上げ、学んだことを実生活に結び付けやすい工夫がされている。また、保健体育の学習が、将来どのように生かされるのかが示され、学習内容に関連した職業や資格が紹介されるなどキャリア教育と結び付ける工夫がされている。また、「章デジ」と名付けられたデジタルコンテンツが豊富にあり、動画や資料が充実している。さらに、コンテンツにはワークシートも用意され、学んだことや自分の考えを整理しやすいようになっている。

「大修館」については、まず、導入にある「課題をつかむ」や「今日の学習」を活用することで、生徒の授業への関心を高めることができ、本文が明瞭かつ簡潔に分かりやすくまとまっていることで基礎的な知識及び技能を身に付けやすくなっている。次に、資料が本文のすぐ近くに豊富に掲載されており、生徒たちの考えを深めやすくなっており、コラムやイラストによって、知識を確実に身に付け興味を広げる工夫がされている。さらに、章のまとめの問題が「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に分けられていて、どんな力をつけたかが生徒にも教師にもわかりやすくなっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、他の教科に関連する内容が載っている場合には「他教科」というマークがあり、関連する学習内容が教科書内にある場合には「関連」というマークがある。また、「学習のまとめ」「コラム」「保体クイズにトライ」など、二次元コード（QR）を活用して興味をもって学習が深められるようになっている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「学研」である。現在使用している教科書であるとともに、学んだことを実生活や将来の職業に関連づけやすい配慮がなされるなど「新熊谷プロジェクト」の目指す「オーセンティックな学び」を実現しやすいと考えるからである。また、保健体育の学習が自分の幸せな生活につながるという視点が多く取り入れられている点も評価できる。

次点は「大修館」である。

【質疑応答】

○委員

「学研」と「大修館」について説明があったが、似ているところはどこか。また、

ページ数や教材数で何か違いはあるか。

○選定委員

2社とも内容についてよく工夫されており、写真や絵も豊富で扱っているデータも最新のものである。また、章ごとにまとめの問題が設定されており、振り返りや知識の整理等に活用できるようになっている。総ページ数は2社とも同じであるが、領域別の教材数は異なっている。これは、教材のくくり方に会社ごとのコンセプトがあるためと思われるが、学習指導要領の内容は2社ともに網羅しているため教材数の多少は差支えがないものとする。しかしながら、「主体的・対話的で深い学び」を促すための教材数は、「学研」が191点、「大修館」が127点であったので、「学研」の方が生徒の主体性を伸ばすという面からすると使いやすいと考える。

○委員

小学校で使っている体育科（保健）の教科書と会社が異なっても大丈夫か。

○選定委員

学習指導要領に示されている保健分野の内容は、各学年ごとにまとまっておりそれぞれ独立した単元で構成されているため、小学校の教科書と出版社が異なっても不都合はないものとする。

○委員

「新熊谷プロジェクト」との関連について、各社の違いはあるか。

○選定委員

どの教科書会社も資料が豊富で、オーセンティックな学びがしやすいと感じる。また、他教科との関わりをマークで示す等どの会社も教科書に明記している。中でも「学研」は保健体育の学習が将来どのように役立つのかキャリア教育と結び付けられた工夫がされており、「学びを生かす」という活動で実生活につながる振り返りができるようになっている点が優れていると考える。

○教育長

保健体育については、「学研」、「大修館」との推薦があった。

これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

技術・家庭（技術分野）について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては3社ある「東京書籍」「教育出版」「開隆堂出版」のうち、「東京書籍」「開隆堂出版」の2社を推薦する。

2社の教科書には、基本的な流れをガイダンスで丁寧におさえ、各内容で同じよ

うな流れで問題解決する体験を繰り返すことで問題解決能力が身につくような工夫がある。

「東京書籍」については、問題解決能力を育成するために各内容とも「基本的な知識の習得」から「技術の問題解決の工夫」や「問題の発見と課題の設定」という学習内容の流れとなっている。また、評価の観点例があるのでP D C Aサイクルに生かしやすいということもある。さらに、技術の原理・法則や基礎的な施術のしくみについて、本文の内容を裏付ける図などが記載され科学的な思考に基づく知識が習得できるようになっている。加えて、「テックラボ」という基礎・基本となる技能を押さえた箇所がポイントとして示してあり、問題解決をするために身に付ける必要がある技能が工夫されている。資料については、問題解決例が具体的に示され、身の回りの困りごとなどについて生徒に「解決したい」と思わせる工夫がある。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、各内容の最終章でこれからの新しい技術の開発と持続可能な社会の実現について考えたり調べたりできる工夫がある。

「開隆堂出版」については、問題解決能力を育成するために、各内容では「問題の発見と課題の設定」「構想と設計（計画）」「製作（制作、育成）」「成果の評価と改善」で統一的に示されている。また、各内容の「社会と発展と技術」では技術の「可能性」と「課題」について示されており、これからの技術とその活用について考えられるようになっている。さらに、各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順」や「技術による問題解決」について学習するよう構成されている。資料としては、複数の実習例が具体的に掲載されており、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるようになっている。また、技術に携わる人が紹介され、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう工夫されている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、自然災害や病気・けがなどについて3年間で学んだことを生かし解決策について考えさせるようになっている。また、他教科とのつながりが分かりやすい工夫がある。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「開隆堂出版」である。現在使用している教科書であるとともに、実習例が複数掲載されており地域や学校の実態に応じて選択して指導できるようになっていると考える。また、各内容の冒頭に他教科とのつながりが分かりやすく示されていることで、教科横断的なカリキュラム編成に結びつけることが容易になり「新熊谷プロジェクト」の更なる充実を図ることができる。と考える。

次点は「東京書籍」である。

【質疑応答】

○委員

問題解決的な学習の進め方、社会的な見方・考え方を生かすことについてどのような工夫があるか。

○選定委員

「東京書籍」では、問題解決の例があり技術による問題解決をどのように進めていくかをわかりやすく示し自らの問題解決に主体的に取り組むよう工夫している。

「開隆堂出版」では、各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順」や「技術による問題解決」について学習するよう構成されている。また、実験など協力をしながら行い結果を話し合って検証するなどの場面を設けることで協働的な学びを充実させることができている、学習課題で話し合うような活動も多く取り入れている。技術に関わる倫理観についても取り上げている箇所が多く、倫理観の醸成につなげられる。

○委員

実習における特徴は何かあるか。

○選定委員

「東京書籍」では、例えば「TECH Lab（テックラボ）」で基礎的・基本的な技能をまとめて掲載し、いつでも確認できるようにしている。

「開隆堂出版」は、安全指導に関わる表示が複数ある。また、ページの右上に内容に関連した工具や部品などの名前が紹介されており視覚的に名前と工具が一致できるようにになっている。さらに、製作品の例示数が32例示と他の教科書より比較的多く生徒自身が考える際のヒントとなるため、生徒一人一人の個別の学習に生かしやすい工夫がされている。

○教育長

技術・家庭（技術分野）については、「開隆堂出版」、「東京書籍」との推薦があった。

これらを参考に採決することによってよろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

技術・家庭（家庭分野）について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては3社ある「東京書籍」「教育出版」「開隆堂出版」のうち、「東京書籍」「開隆堂出版」の2社を推薦する。

2社では技術分野と同様に基本的な流れをガイダンスで丁寧におさえており、家庭分野で身に付けたい力や学び方などをわかりやすいイラスト等で示している。

「東京書籍」については、知識及び技能を習得できるようにするために、各内容で「学習のまとめ」や「大切な用語の確認」が掲載されており、学習の振り返りができる構成で、基礎・基本的な知識・技能をわかりやすく習得できるよう工夫され

ている。また、家庭分野の見方・考え方の例が示してあり、問題解決に生かすことができるよう工夫がされている。資料については、基礎的・基本的な実習例のほか、生徒の実態に合わせて資料を選択することができるように工夫されている。また、各章の始めに小学校とのつながりや見方・考え方がマークとして掲載されている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、学習に関わりのある内容を「プロに聞く！」のメッセージを紹介し、身近に感じられる内容が工夫されている。

「開隆堂出版」については、知識・技能を習得できるようにするために、内容のまとまりごとに「学習のまとめ」が掲載され、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるように工夫がされている。また、学習領域ごとに「振り返り」や「学習のまとめ」の欄があり、学習の自己評価ができ身に付いた知識や技能を生活に生かすことができるよう構成が工夫されている。さらに、各内容ではタイトルで何を学ぶのかが示され、科学的根拠に基づき視覚的に理解しやすいようにまとめられており、学習の見通しがもてる工夫がある。資料については、複数の実習例が具体的に掲載されており、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるようになっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、学習に関わりのある人のメッセージやインタビューを取り上げ、社会とのつながりや課題を感じられる工夫がされており、他教科とのつながりが分かりやすい工夫がある。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「開隆堂出版」である。現在使用している教科書であるとともに、実習例が復習掲載されており、地域や学校の実態に応じて選択して指導できるようになっている。また、各内容では他教科とのつながりが分かりやすく示されていることにより、教科横断的なカリキュラム編成に結びつけることが容易になり、「新熊谷プロジェクト」の更なる充実を図ることができる考える。

次点は「東京書籍」である。

【質疑応答】

○委員

問題解決的な学習の進め方、社会的な見方・考え方を生かすことについてどのような工夫があるか。

○選定委員

「東京書籍」は、各単元に生徒一人一人が課題を設定できる欄があり、1時間ごとに学習する「目標」と「学習課題」が掲載されている。

「開隆堂出版」では、生活の中での課題を考える場面が多く設定されており、自身の課題を見つけ主体的に取り組めるよう工夫されている。具体的には、生活とつながる課題として「考えてみよう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」という欄が多く設定されており、課題解決に向かう力を培えるように様々な課題を多く取り上げている。また、科学的根拠が「視覚的にわかる」工夫がされて

おり体験的な学習でより深い理解につながると考える。

○委員

実習における特徴は何かあるか。

○選定委員

「東京書籍」は、「いつも確かめよう」という実習における安全に配慮した基礎的な技能が掲載されている。

「開隆堂出版」では、安全・衛生に配慮する項目が多数取り上げられており、理解しやすいように視覚的なもので注意事項が一目でわかるような工夫がされている。

○教育長

技術・家庭（家庭分野）については、「開隆堂出版」、「東京書籍」との推薦があった。

これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

英語について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては6社ある「東京書籍」「開隆堂出版」「三省堂」「教育出版」「光村図書出版」「新興出版社啓林館」のうち、「光村図書出版」「東京書籍」の2社を推薦する。

「光村図書出版」については、学習指導要領の「知識及び技能」を習得できるようにするために、各単元を「P a r t」ごとに分け「L i s t e n」「S p e a k」「W r i t e」コーナーの各活動後「基本文」を扱うことで、使いながら学んできた新出文法を確かめ整理することができるような構成になっている。「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、単元の「P a r t」で目的・場面・状況を整理理解を深めた後に情報整理、発表の「G o a l」で構成されている。また、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて既習事項を活用し5領域を統合した言語活動を行うことができる構成になっている。「学びに向かう力、人間性等」をかん養するためには、3年間のストーリーを読み進めることで、英語の使用目的や場面を理解し、話題を自分事にし、生徒の主体的な発信につながるよう構成されている。

「新熊谷プロジェクト」との関わりでは、学年ごとに設定された目標に沿った話題を単元をこえて複数の教材で扱っている。また、日常生活や実社会の問題、他教科の学習等に有機的に結び付けようと工夫している。

「東京書籍」については、学習指導要領の「知識及び技能」を習得できるように

するために、各単元の冒頭でアニメーションや写真を使って目的・場面・状況を捉え、次に本文の概要把握、必要な情報の理解、自己表現の3ステップで構成されている。「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、実生活における身近な場面が設定されており、場面や目的を踏まえて自分の考えを表現できるよう工夫されている。「学びに向かう力、人間性等」をかん養するためには、どの学年でも身近な生活や社会問題、文化を題材にした単元構成になっている。学年が上がるにつれて社会問題や文化を取り上げた題材のボリュームが増えており、発達段階に応じて生徒の興味・関心を引き出すような構成となっている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、グラフや表を読み取りながら読み進められるような題材が掲載されている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は、「光村図書出版」である。教科書で取り上げているストーリーが3年間にわたってひと続きとなっており、登場人物4人の中学生の生活にふれることで、生徒の実生活に限りなく近付けたオーセンティックな学びが実現できると考える。また、熊谷教育で行っているラウンドシステムによる英語の授業では、教科書の内容を年に数回繰り返し学習するため、登場人物やストーリー展開に一貫した流れがあるものの方がよいと考える。さらに、小学校で使用している教科書と同じ登場人物を扱う教科書の方が、生徒が自らの成長や発達と重ね合わせながら、思考力、判断力、表現力等を働かせて言語活動を行わせるのに効果的だと考える。

次点は「東京書籍」である。

【質疑応答】

○委員

熊谷教育で行っているラウンドシステムとは、どのようなものか。

○選定委員

ラウンドシステムは、1年間で教科書を5回程度繰り返し学習することにより、学習内容の理解や定着を深めるための指導法である。ラウンド1は、音声と場面絵で単元の概要を把握するもので、ラウンド2は、音声と本文の文字を一致させる学習活動を行うもの、ラウンド3は、本文を音読し、ノート等に転写するもので、ラウンド4は、本文を部分的に穴あきした教材を使って音読し転写する。ラウンド5では子どもたちが自分の言葉で単元の内容を話し、書くことで再現するものである。

○委員

I C Tとの関連はどうか。

○選定委員

いずれの出版社のデジタル教科書にも、新出語句や本文の音声等が収録されており、生徒の学習状況に応じて発話速度を変え、字幕を設定することができる。また、アニメーション動画により言語使用の目的・場面・状況についての理解を助ける工

夫がされている出版社もある。中でも「光村図書出版」のデジタル教科書には実写ドラマも収録されており、英語だけでなく表情や身ぶりからも登場人物の気持ちや考えを理解しやすくなっている。

○教育長

英語については、「光村図書出版」、「東京書籍」との推薦があった。

これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

○教育長

道徳について説明を求める。

○選定委員

選定委員としては7社ある「東京書籍」「教育出版」「光村図書出版」「日本文教出版」「学研」「あかつき教育図書」「日本教科書」のうち、「東京書籍」「日本文教出版」の2社を推薦する。

「東京書籍」については、まず現代的な課題として、「いじめ問題」「生命尊重」「情報モラル」「多様性」「SDGs」の5つを重要課題とし、「命の大切さ」については、複数教材を通して、生徒が命について多面的・多角的に考えられるようにしている。次に、教材のテーマを補充・進化させるコラムが多く掲載されており、それらを活用することで、生徒が考えを広げ、深めることができる。さらに、各教材には「つぶやき」の欄が設けられ、生徒が授業で感じたことや考えたことを書き込んでその後の話し合いに生かせる等、「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫がされている。「新熊谷プロジェクト」との関わりについては、他教科と関連する内容がある場合には教材の冒頭に関連マークが付けられ、教科横断的な視点をもって授業が進められる。また、「道徳の見える化」の授業を実現する上で、3学年で300を超えるデジタルコンテンツが用意され、ねらいとする道徳的価値への方向付けや、主題に対する興味・関心を高めることができる。さらに、紙及びデジタル使用できる「心情円」が用意され、自分の思いや考えを可視化することができる。加えて、すべての学年で役割演技ができるコラムがあり、話し合い活動を工夫することができる。

「日本文教出版」については、まず、現代的な課題として、「いじめ問題」「情報社会」「自立と共生」「環境と未来」「安全な生活」の5つのテーマについて取り扱っている。特に「いじめ問題」については、全学年で複数の教材とコラムを組み合わせたユニットを配置し、未然防止につなげられる工夫がされている。さらに、教材の最後に「自分に+1（プラスワン）」という教材内容について考えさせる発問とそれをもとに自己を振り返らせる発問を設定している。「新熊谷プロジェクト」との関

わりについては、「道徳の見える化」の授業を実現する上で、教材以外に多種多様なコラムが掲載されており、学習内容を補充・発展させ、他教科との関連に生かすこともできるように工夫されている。また、各教材の二次元コード（QR）から、ワークシート、朗読、心情メーター、シンキングツール、動画や画像が活用できるようになっており、授業を展開する幅が広がる。さらに、一部の教材には「学びを深めよう」が設定され、アンガーマネジメントやアサーションなど、自分の感情との向き合い方、人とのコミュニケーションの取り方などを知る問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れている。

本市に最もふさわしいと考える教科書は「東京書籍」である。授業の流れが一目でわかる構成になっており、教材冒頭に学習のテーマが示され、教材末の発問と呼応させることで、教材全体を通して道徳的価値に迫ることができるようになっている。また、「つぶやき」をメモする欄や「学びの振り返り」を記入する欄があり、話し合いや考えを深めることを重視した作りになっている。さらに、話し合う時間を確保するために教材の見直しが行われ、1教材あたりの朗読時間が平均35秒減っており、これにより考え、議論する時間が確保でき道徳の時間がより充実すると考える。

次点は「日本文教出版」である。

○委員

「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫について、この2社はどのように位置づけているか。

○選定委員

「東京書籍」は、各教材に「つぶやき」欄が設けられ、生徒が授業で感じたことや考えたことを自由に書き込むことができ話し合いに向けたメモをつくることができる。また、教材と関連したテーマをさらに進化・拡充させるコラムを多数掲載しており、さまざまなタイミングで自由に読むことができ読むことでさらに考えを深め、広げることができる。また、「ぐっと深める」という活動を新設し、人間としての生き方を深く考えるための手助けとなる補助発問を取り入れている。

「日本文教出版」は、別冊の「道徳ノート」において自分の考えや友達の意見などを自由にメモできるようになっている。また、「自分に+1」といった、教材内容について考えさせる発問と、それをもとに自己を振り返らせる発問を設定している。

○委員

「道徳の見える化」について、どの教科書が一番適しているか。

○選定委員

「東京書籍」だと考える。教材と関連したコラムを掲載しているページ「plus（プラス）」では、ソーシャルスキルに関するコラムを全学年に用意するなど、子

供たちの道徳的実践が積極的な行為として習慣化できるような工夫が見られる。また、全学年の巻末にある「心情円」や二次元コードコンテンツ内の「デジタル心情円」を使って、自分の思いや考えを可視化することができる。

○教育長

道徳については、「東京書籍」、「日本文教出版」との推薦があった。

これらを参考に採決することによろしいか。

○委員一同

異議なし。

※ 選定委員会委員及び傍聴人退出に休憩をはさみ再開

※ 採決については非公開

【「議案第２７号 令和７年度使用中学校用教科書の採択について」の採択結果】

国語、教育出版

書写、教育出版

社会（地理的分野）、東京書籍

社会（歴史的分野）、東京書籍

社会（公民的分野）、東京書籍

地図、帝国書院

数学、新興出版社啓林館

理科、東京書籍

音楽（一般）、教育芸術社

音楽（器楽）、教育芸術社

美術、日本文教出版

保健体育、学研

技術・家庭（技術分野）、開隆堂出版

技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版

英語、光村図書出版

道徳、東京書籍

教育長の宣言により、令和６年７月臨時熊谷市教育委員会を閉会した。

(1 1 時 3 0 分 閉会)

署名

教育長 野原 晃

委 員 大石 聡一